

## 金沢医科大学と(株)トヨックスとの共同開発による透析液清浄化の実現

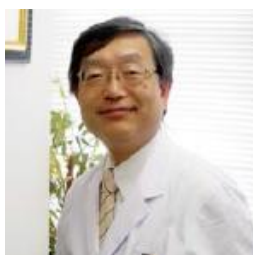
従来、透析液供給システムにおける透析液の清浄化を確保する目的のため、様々な洗浄方法や洗浄剤の改良がなされてきた。一方、金沢医科大学の研究グループは、これまで見逃されがちであったホースや接続継手の材質および微視的な流路構造の不均一性が生物学的汚染の要因であるバイオフィルムの形成や細菌由来のエンドトキシンの増加に影響することを見出した。



この研究成果をきっかけとして、産業用耐圧ホースで実績のある(株)トヨックスとの共同開発がスタートした。この共同開発では一貫して「透析液供給システムを構成する部品・素材は清浄化に適切か」という、これまであまり注目されてこなかった視点で研究開発を行い、部品の素材、微視的形狀、接続方法が経年使用による生物学的汚染の新興に及ぼす影響に着目して改良を重ね、トヨクリーン H ホースおよび専用継手の商品化にたどり着き、透析液の清浄化を飛躍的に向上させた。



金沢医科大学  
腎臓内科学  
教授 古市 賢吾



金沢医科大学  
腎臓内科学  
教授 横山 仁



金沢医科大学病院  
血液浄化センター  
臨床工学技士 荒木 忠